

# 文化財ニュース

No. 41

発行 加古川市教育委員会 加古川市加古川町北在家23-1  
編集 生涯学習推進室 電話 24-1151 (代表)  
27-9349 (直通)

## 平成9年度 市指定文化財に3件を指定

加古川市教育委員会では、文化財審議委員会（委員長 吉田亨盛）の答申を受けて、文化財3件を新たに市指定文化財に指定しました。これにより指定文化財は、国指定22件、県指定30件、市指定33件になりました。

1. 教信寺境内地 野口町野口 教信寺  
教信寺は、平安時代に足跡を残した教信上人の終焉の地です。とくに鎌倉時代に入ると、親鸞上人や一遍上人らにより浄土教の先達として再認識されることになりました。とくに一遍上人は教信寺を訪れ、その様子が国宝『一遍上人絵伝』に描かれ、この時に行われた念仏踊りが、現在も「野口念仏」として催されています。

境内には、本堂を中心に観音堂・開山堂が東西にあり、また教信上人御廟と伝えられる県指定文化財の南北朝時代の石造五輪塔があります。

教信寺の南側には山陽道（西国街道）が通り、『一遍上人絵伝』にある情景を今によく残し、教信上人の遺徳を伝える歴史的景観が残っていることで史跡に指定しました。



山陽道（西国街道）より  
山門・境内地を望む（南から）



境内地の本堂（右）・観音堂（左）

2. 如意輪観世音菩薩半跏像 加古川町北在家 鶴林寺  
 像は右手を頬に当てた半跏思惟の像であり、顔・胴衣・指の形状から、国宝太子堂建立前後の平安時代後期（11世紀後半）の作と考えられます。如意輪観世音菩薩像は、後世になると如意を左手にのせた形が主流となりますが、この像は奈良中宮寺の像と同様の古式の姿をしています。

この像は頭部と胴部が離れ別々に保管されていましたが、

阪神淡路大震災直後に仏像修復ボランティアで鶴林寺を訪れた早稲田大学桜庭講師から一体の像であるとの指摘があり、奈良大学正森教授の指導のもとに修復されたものです。

聖徳太子には、多くの後身説（慧思禅師生まれ変わり説）や化身説があります。化身説には、如意輪観世音であるとするのが有名です。

聖徳太子ゆかりの鶴林寺に、その化身である如意輪観世音菩薩像が存在していたことは興味深く、平安時代の太子信仰を如実に示す仏像彫刻として注目されます。



像高75cm

3. 陣屋

加古川町寺家町 山脇真樹氏邸



江戸時代には街道筋に人馬継立所を設け、幕府公用の連絡を行いました。加古川の寺家町にも人馬継立所がありましたが、その東隣にあったのが姫路藩の加古川役所であった陣屋でした。

陣屋は日常は役所ですが、大名通過の際には歓待場所ともなりました。そのため陣屋は、建物の立派さだけでなく、庭園も配置した構成となっていました。

現在の加古川陣屋は寺家町通りの中央部に位置し、主屋建物と庭、そして姫路から勧進された稲荷神社があります。陣屋の建物は、宝永二年（1705）3月18日に建造されたと伝えられています。建物は中央部に上段の間を配し応接部分の部屋割りも良好に残り、江戸時代の加古川宿の面影を伝える建物です。

## 里古墳の発掘調査について

里古墳は平荘湖の北側に広がる見晴らしの良い台地上に築かれた古墳です。発掘調査は里・山条は場整備事業に伴って、加古川市教育委員会が1997年8月1日より開始し、1998年3月に終了しました。調査開始前における古墳の現状は後世の土取りや田畑の開発のため、大きく変形していました。長さ33m、高さ2mの長方形の高まりといった外観を呈し、墳長部はならされて畑となっていました。しかし、調査を開始すると墳丘周囲の水田下から現状よりひとまわり大きな前方後円墳の基底部分が検出されました。前方後円墳は鍵穴のような形をした古墳で通常有力者の墓に採用されました。全長は約45mで、後円部径約30m、前方部長約15mです。前方部が全長の1/3となる前方部の短い前方後円墳です。また古墳の周りには、盾形に浅い周溝が巡っていることがわかりました。周溝を含めた全長は約52mとなります。前方部には北側の片方だけ造出が造られていました。造出はマツリをおこなった場所と考えられています。これも、すでに大部分は壊されていましたが、取りつきの一部が破壊をまぬがれて発見されました。斜面には竜山石を葺石（ふきいし）として使い、平坦な面（テラス）に円筒埴輪列を配していました。また、前方部北西隅からは古墳に登る通路と考えられる陸橋も検出されています。陸橋は地山の堀り残しによって造られ、周溝の隅に向ってのびています。

墳丘上には部分的に円筒埴輪列が残されており、そのことから、古墳が二段築成で造られていることがわかりました。埴輪は作り方の特徴から5世紀末のものと思われる。埴輪片は埋土の中にも多く含まれていて、築造時には古墳全体に樹立されていたと考えられます。葺石も部分的に残る場所があり、当初は古墳全体に葺かれていたと考えられます。また、後円部墳頂からは竪穴式石室も発見されました。これも、すでに大部分は削られて無くなっていましたが、6.5m×4.5mの掘方を持ち、石積みがわずかですが残されていました。中央に木棺を据えていたと考えています。この掘方の検出中に銅鏡が一部出土したため、この遺物のみを取り上げました。鏡は直径21cmの画文帯神獸鏡で5世紀後半のものと思われる。

里古墳は前方後円墳という形で造られていることや、45mという規模の大きさ、葺石、埴輪列を有すること、鏡などの出土品などから考えて、平荘湖古墳群の首長の墓と考えられます。そして、この古墳は加古川における首長墓の変遷を知るうえで非常に重要な古墳であると言えます。



位置図（・印）



画文帯神獸鏡出土状態



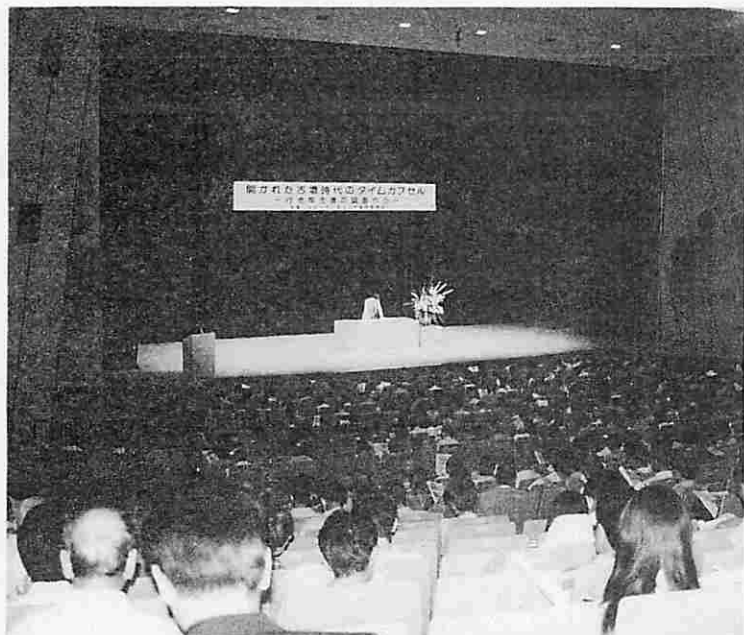
造出と円筒埴輪列の調査状況

文化財シンポジウム

「開かれた古墳時代のタイムカプセル」

～ 行者塚古墳の調査から～

速記録刊行



平成9年9月21日（日）に開催された行者塚古墳のシンポジウムの速記録が刊行されました。古代東アジア世界を視野に入れ、各地の中期古墳を比較し、行者塚古墳の謎にせまりました。熱っぽく議論された内容をもとに古墳時代を今一度考えてみませんか。

●頒布価格 一冊 1,000円

◎購入、問い合わせは、  
新館8階生涯学習推進室まで。

電話 27-9349

文化財に関心のある方 加古川市文化財保護協会に入会しませんか。

加古川市内には数多くの文化財があります。わたしたちの祖先の文化遺産が、社会開発と生活様式の変化とともに、消滅の危機にさらされています。保護協会は、これらの文化財（有形・無形・民俗文化財・記念物）ならびに自然風土を保護し、これらに関する研究とその知識の普及をはかり、市民文化の向上に資することを目的に、昭和51年11月13日に結成されました。そして、文化財見学会、講演会の開催、文化財説明板の設置や文化財テレホンカードの発行などを通じて文化財保護の活動を

積極的に展開しています。保護協会で加古川の文化財の再発見をしてみませんか。

会費 年間2,000円（中・高校生1,000円）

◎文化財シリーズテレホンカード配布

◎文化財見学会・文化財講座の案内

保護協会入会のお問い合わせ

加古川市教育委員会 生涯学習推進室

電話 24-1151 〈内線5214〉

文化財シリーズテレホンカード紹介（各700円）



▲尾上神社の銅鐘 ▲長楽寺地藏菩薩像 ▲県指定史跡 西条廃寺 ▲常楽寺阿弥陀三尊来迎図 ▲国指定史跡 行者塚古墳

購入ご希望の方は、教育委員会 生涯学習推進室（新館8階）へお立ち寄りください。